

教育・研究業績書

講座名 リハビリテーション科学		
＜教員の紹介＞		
教 授 古 市 照 人 講 師 渋谷 健一郎		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
①□ 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
1. 学生教育	2004年5月～現在	<p>1 学年に、「アーリーエクスポージャー I」で臨床現場の早期体験として、リハビリテーション訓練現場での利用者との経験談を聴取する目的の対話を中心とした対応を実習し、合わせて以後の実習に必要な介護技術の習得を目的に各種福祉機器の操作法実習を行った。</p> <p>3 学年に、「循環器」で循環器領域におけるリハビリテーション、「脳・神経」でリハビリテーション評価法、高次脳機能障害のリハビリテーション、脳血管障害のリハビリテーション、社会と医療、「小児医学」で小児のリハビリテーション、「運動器」で歩行の運動学と評価、理学療法と作業療法、切断のリハビリテーション、脊髄損傷のリハビリテーション、装具・車いす・自助具・杖・その他の福祉機器について基本的な講義を行った。</p> <p>4 学年に、「治療学」でリハビリテーション、「今日の医療・医学」で診療情報と医療面接、医療の質と安全の確保、介護と在宅医療、「ターミナル・ケア」でターミナルリハビリテーションとして総論的な講義と臨床現場での現実的な課題をテーマとして講義を行った。</p> <p>6 学年に、「運動器疾患」でリハビリテーション医学概論、各種疾患のリハビリテーションとして集中講義を行った。</p> <p>5 学年の必修 BSL (1 週間) として、院内でのリハビリテーション対応について、将来チーム医療と</p>

2. 地域活動	<p>2008年10月～現在</p> <p>2004年5月～現在</p>	<p>して共に働くことが確実なコメディカルスタッフからの指導を含めた現場を重視した実習に加えて、学外での実習として地域リハビリテーションセンターのこども療育センターやこども発達支援センター、肢体不自由者更生施設ならびにセンターに併設されている特別支援学校において対象者を受持った上での社会リハビリテーションの実習を行った。</p> <p>看護学部の2学年に、「リハビリテーション論」でリハビリテーション医学、理学療法概論、心臓リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、疾患別リハビリテーション、作業療法概論、言語障害リハビリテーション、社会的リハビリテーション、障害学概論について講義を行った。</p> <p>「栃木県リハビリテーション談話会」を主催して年数回、地域リハビリテーション関係者の教育や研究面での支援を行った。</p>
② 作成した教科書、教材、参考書		
「リハビリテーション医学」の教科書作成	2005年3月	リハビリテーション医学会の教育関係者とともに作成。講義における参考図書として活用している。
「リハビリテーション看護」の教科書作成	2006年3月	
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
リハビリテーション科学	教授	古市 照人	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1979年6月～現在	日本リハビリテーション医学会会員 日本整形外科学会会員 日本パラプレジア医学会会員		
1987年5月～現在	日本温泉気候物理医学会会員		
1988年5月～現在	日本義肢装具学会会員 日本保健福祉学会会員		
1992年6月～現在	国際リハビリテーション医学会会員		
1993年5月～現在	日本老年医学会会員		
1997年6月～現在	日本老年医学会学術評議員		
1999年4月～現在	壬生町老人保健福祉計画・介護保険事業計画作成委員会委員		
1999年7月～現在	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構「雇用管理サポート事業」協力専門家		
1999年8月～現在	栃木県社会福祉審議会委員		
2000年4月～2006年3月	壬生町介護認定審査会委員		
2000年6月～現在	日本リハビリテーション医学会評議員		
2001年6月～現在	言語聴覚士国家試験委員		
2003年7月～現在	とちぎリハビリテーションセンター運営協議会医療連携部会委員		
2004年6月～現在	義肢装具士国家試験委員		
2006年6月～現在	柔道整復師国家試験委員		
2008年6月～現在	栃木県脳卒中・急性心筋梗塞対策協議会委員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>古市照人</u> , 鈴木大雅: 熱傷. 米本恭三監修, 最新リハビリテーション医学, 第2版, 医歯薬出版, 369-375, 2005.			
2. <u>古市照人</u> : 先天異常・脳性麻痺. 江藤文夫, 飯島節編集, 神経内科学テキスト, 改訂第2版, 南江堂, 268-283, 2005.			
3. <u>古市照人</u> : リハビリテーションチームと諸療法. 貝塚みどり, 大森武子, 江藤文夫, 酒井郁子編集, リハビリテーション看護, 第2版, 医歯薬出版, 26-28, 2006.			
4. 朝貝芳美, 浅見豊子, 小竹伴照, 高橋秀寿, 根本明宜, 正門由久, 美津島隆, 森田定雄, 安保雅博, 生駒一憲, 鴨下博, <u>古市照人</u> , 赤居正美, 石神重信, 大橋正洋, 中村隆一, 平澤泰介, 住田幹男, 才藤栄一: リハビリテーション医学用語集第7版. 文光堂, 東京, 2007.			
5. 島袋久弥, 鈴木大雅, 渋谷健一郎, <u>古市照人</u> : 高齢者の腰痛症に対するリハビリテーションアプローチ. 老年医学update 2007-08. 日本老年医学会雑誌編集委員会編, , メジカルビュー社, 東京, pp25-33, 2007.			

6. 古市照人：廃用症候群の予防. 老年医学テキスト改定第3版, メジカルビュー社, 東京, pp285-286, 2008.
7. 古市照人：筋力低下. 最新整形外科大系リハビリテーション, 越智隆弘総編集, 中山書店, 東京, pp79-83, 2008.

【原 著】

欧文

1. Iida M, Imura J, Furuichi T, Sawada T, Nagawa H, Fujimori T : Alteration of the AT motif binding factor-1 expression in α -fetoprotein producing gastric cancer : Is it an event for differentiation and proliferation of the tumors ?. Oncology Reports 11: 3-7, 2004.
2. Takano H, Morita T, Iida H, Kato M, Uno K, Hirose K, Matsumoto A, Takenaka K, Hirata Y, Furuichi T, Eto F, Nagai R, Sato Y, Nakajima T : Effects of low-intensity kaatsu resistance exercise on hemodynamic and growth hormone responses. J Kaatsu Training Res 1:13-18, 2005.
3. Iida H, Takano H, Meguro K, Asada K, Oonuma T, Morita T, Kurano M, Sakagami F, Uno K, Hirose K, Nagata T, Takenaka K, Suzuki J, Hirata Y, Furuichi T, Eto F, Nagai R, Sato Y, Nakajima T : Hemodynamic and autonomic nervous responses to the restriction of femoral blood flow by kaatsu. J KAATSU Training Res 1:57-64, 2005.

和文

1. 古市照人：脳卒中患者の片麻痺手に対する段階継手付き上肢装具. Medical Rehabilitation 49:23-26, 2005.
2. 古市照人：私立大学病院の現状と取り組み. リハビリテーション医学 42:308-309, 2005.
3. 高橋博達, 赤星和人, 染屋政幸, 梅津祐一, 江端広樹, 尾花正義, 畑野栄治, 長谷公隆, 古市照人, 古閑博明, 原寛美, 近藤克則：平成 19 年度リハビリテーション料の診療報酬改定に関するアンケート結果. リハビリテーション医学 44:638-642, 2007.
4. 里宇明元, 水間正澄, 田中宏太佳, 江端広樹, 染屋政幸, 尾花正義, 長谷公隆, 古市照人, 古閑博明, 高橋博達, 原寛美, 近藤克則, 赤星和人, 梅津祐一, 畑野栄治, 川手信行, 藤谷順子, 森英二：平成 20 年度リハビリテーション医学に関連する社会保険診療報酬等の改定について. リハビリテーション医学 45:264-270, 2008.
5. 水間正澄, 吉永勝訓, 川手信行, 高橋博達, 染屋政幸, 尾花正義, 古閑博明, 近藤克則, 長谷公隆, 原寛美, 藤谷順子, 古市照人, 森英二, 近藤国嗣, 菅原英和, 江端広樹, 田中宏太佳：平成 2 0 年度リハビリテーション料の診療報酬改定に関するアンケート結果について. リハビリテーション医学 46:7-13, 2009.

【症例報告】

【総 説】

和文

1. 古市照人, 鈴木大雅, 山野上昭光, 原田孝：運動と筋肉. Geriatric Medicine 47: 873-879, 2004.
2. 吉田健哉, 古市照人, 島袋久弥：上肢関節拘縮と装具療法. 総合リハビリテーション 34:971-974, 2006.
3. 加藤祝也, 古市照人, 大島広一：関節リウマチの理学療法. Medical Rehabilitation 71:39-45, 2006.
4. 古市照人：関節リウマチのリハビリテーション. Medical Rehabilitation71:1, 2006.
5. 大山輝夫, 古市照人：卒前教育. 総合リハビリテーション 34:927-931, 2006.

【そ の 他】

和文

1. 古市照人: 栃木県・温泉地域再生に向けて、いま何ができるのか. 下野新聞: 2004, 9.
2. 古市照人: 人生の本質を知ることの重要性. マロニエ医療福祉専門学校創立10周年記念誌: 13, 2004, 10.
3. 米山均, 古市照人: 脳性麻痺リハビリテーションの現状と課題. カレントセラピー 22: 1125-1130, 2004.
4. 古市照人: リウマチと福祉用具. 流-生活便利帳- 238: 6-10, 2004.
5. 古市照人: リハビリテーション医療の原点. ドクターズプラザ 34:4-5, 2007.
6. 古市照人: リハビリテーションの多くの側面. ドクターズプラザ 35:4-5, 2007.
7. 古市照人: 病気や障害のリハビリテーション治療の目標は全人的復権. ドクターズプラザ 36:4-5, 2007.
8. 古市照人: 廃用症候群について. ドクターズプラザ 37:6-7, 2007.
9. 古市照人: リハビリテーションチームの課題や役割. ドクターズプラザ 38:4-5, 2007.
10. 古市照人: ターミナルリハビリテーションの最終目標. ドクターズプラザ 39:6-7, 2007.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
リハビリテーション科学	講師	渋谷 健一郎	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
<p>日本リハビリテーション医学会員</p> <p>日本老年医学会員</p> <p>意識障害学会員</p> <p>雇用管理サポート事業専門家</p>			
Ⅲ 研究活動			
<p>【学位論文】</p> <p>【著 書】</p> <p>和文</p> <p>1. <u>渋谷健一郎</u>：神経内科テキスト．江藤 文夫，飯島 節編，南光堂</p> <p>2. <u>渋谷健一郎</u>，古市照人：高齢者診療マニュアル．メジカルビュー社</p> <p>3. <u>渋谷健一郎</u>：QOLを高めるリハビリテーション看護．貝塚みどり・大森武子・江藤文夫 ほか編，医歯薬出版株式会社</p> <p>4. <u>渋谷健一郎</u>：老年医学テキスト．日本老年医学会編，日本老年医学会</p> <p>【原 著】</p> <p>【症例報告】</p> <p>【総 説】</p> <p>和文</p> <p>1. <u>渋谷健一郎</u>：脳卒中におけるリハビリテーションの歴史と重要性 脳と循環 13：207-211, 2008</p> <p>【そ の 他】</p>			